

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101967		
法人名	医療法人 展寿会		
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」 (本館)		
所在地	大分市大字寒田235番地の16		
自己評価作成日	平成26年8月4日	評価結果市町村受理日	平成27年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年9月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長自ら外出を提案し、車の運転を行い四季折々の自然に触れる機会を作っている。その際道の駅等で産地直送の新鮮な野菜・果物を購入しホームで提供している。</li> <li>・本人の希望に添って、近隣の理美容室に付き添う。</li> <li>・併設している事業所の行事に参加し、地域の方々と交流を深めている。また、独自でボランティアの方に来て頂き歌と踊りを披露して頂いている。</li> <li>・医院併設、看護師常勤で医療連携が取れている為家族も安心している。</li> <li>・中庭のテラスで日光浴を兼ねて散歩したりお茶会を開いている。</li> <li>・季節ごとの漬物や梅干等入居者と一緒に作り、提供している。</li> </ul>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の希望により随時、ドライブに出かけたり、四季折々の花見など理事長自らも参加するなど積極的な外出支援が行われている。</li> <li>・利用者間の相性関係や入浴、排泄など一人ひとりに配慮した個別支援をしている</li> <li>・利用者の身体・精神状況に合わせた対応で、利用者の表情も明るく、落ち着いて暮らしている。</li> <li>・資格取得や研修など職員のレベルアップに対する法人の取り組みがあり、職員も意欲的である。</li> </ul>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

評価機関：福祉サービス評価センターおおいた

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議の中で意見を出し合い具体的なケアの統一を図っている。理念の実践として地域の商店に買物に出かけたり、美容院を利用している。又、地域の方のボランティアも受け入れしている。	毎月の会議で各担当者が状態報告を行い対応方法を話し合い個別ケアに努めている。管理者も夜勤者も交替で参加している。情報の共有が出来ている。会議内容は記録し、ケアプランにいかしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が参加する法人行事の盆踊り大会、餅つき大会、カラオケへ参加し、交流を深めている。又、独自にボランティアや学生の職場体験の受け入れ、地域の美容院の利用も行っている。	法人行事に地域住民が参加している。定期的なボランティアもある。地元の美容院やスーパーの買い物時や散歩時に挨拶を交わしたり、会話もある。地域の祭りには神輿が事業所に訪れ、利用者がお賽銭を上げる事を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症についての事例や施設での取り組みを基に情報の提供や理事長が老人会の会合等に出向き認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催されており、スライドを使用し、現状報告を行い、理解を深めてもらう。出席者から意見や要望等を積極的に取り入れサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回開催している。会議録もある。法人代表、市・地域包括・警察・自治会・老人会・家族代表など多くのメンバーで実施している。利用者の現状や外出時の様子をスライドで示し、アドバイスを受けている。散歩中の交通安全について警察から助言があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、実情や取り組みを伝えている。又、必要に応じてその場で助言等をしてもらっている。	運営推進会議へ参加協力を得ているので、そのときに取り組み状況や現状報告を行い助言を受けている。外部評価基準の項目について質問し、助言を受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の全体会議にてマニュアルを基に勉強会を開き職員の理解を深めケアの実践に努めている。又、毎月の定例会議に置いても必ず議題に挙げ意識を高めている。	毎月行われる法人の全体会議や、事業所内で月初めと月末に行われる定例会議で議題に上げ拘束について共有している。日々の支援の中でお互いに職員同士が意識しながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議、申し送り等で職員間の情報共有や皮膚の観察など行い状態把握に努めている。又、毎月開催されている法人の全体会議にて、職員の共通認識を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者は現在居ないが、毎月開催されている法人の全体会議にて学ぶ機会を持ち、職員の共通認識を図るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアに対する考え方や取り組みを説明し、又、介護報酬の改定や退居時には詳しく説明し同意、納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会議時に意見や要望を出してもらえるように努めている。又、面会時に何でも言ってもらえるような雰囲気作りをし、玄関には意見箱を設置し、利用者本位の運営に努めている。	8割の家族が参加する年2回の家族会や面会時に聞いている。全く面会のない家族はいない。面会時にお茶を出し、会話の機会作り、日々の様子を写真入りで紹介した「家族交換ノート」を渡し、意見や要望が出やすいように工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で職員の意見や提案を聞ける様な雰囲気を作り、取り入れている。又、日頃からコミュニケーションを図り、問いかけ、聞き出している。	毎月行われる定例会議やミーティングで意見を聞いている。法人の理事長が毎月、職員に運営についての意見を聞いている。普段から管理者との良好な関係作りが出来ている。外出支援の為に大型免許も法人負担で複数の職員が取得している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議や小会議等で代表者が就業規則を説明したり、又、職員資格習得に向けた支援も行い習得後は職場内で活かせる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得やスキルアップの為に法人内外の研修を職員の段階に応じて、受講出来る様に促している。又、新人職員に対しては最初の1ヶ月間はマンツーマンの指導を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で同業者と交流する機会を設けたり、相互訪問し、意見交換してサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いに向き合い、受け入れられるような関係作りに努めている。又、本人の意向が直接把握が難しい場合は、家族から本人の考え方等の情報収集し、反映させる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは、連絡を密に取る事によって信頼関係を築き現状報告や情報の確認を行う。又、面会時に家族の不安や要望を聞き一緒に問題解決出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までのサービス利用状況やこれまでの経緯を聞き当施設のサービスについて説明し理解してもらい入居後、環境の変化にスムーズに馴染めるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の特性を活かし、一緒に洗濯物畳等の役割分担を図り、不安等ある方には時間を掛け、傾聴する。又、食事は職員も同じテーブルにて食べたり、外出をし、コミュニケーションが図れる環境作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気付きを必要に応じて家族へ面会時に報告や電話連絡し、共有し協力を求めたり、共に解決出来る環境を作っている。又、家族との交換ノートを活用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで行っていた近所の理容・美容院に職員と一緒に出かけたり、馴染みの方の面会時には居室でゆったりと過ごしてもらう様に配慮している。	馴染みの理容・美容院に出かけたり、職場の同僚や友人、知人の訪問も多い。面会時は部屋でゆっくりと過ごせるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況や気が合う同士等座席の工夫を行い又、誕生日会やレクリエーションを行い、交流を図れ楽しく過ごせる場面作りを行っている。心身の状態や気分、感情で変化する事もあるので注意深く見守りも行う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の際は頻回に面会に行き本人・家族との関係を大切に維持している。又、退居後も家族に対して必要に応じて支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思い、希望、意向を知り又、家族にも面会時等に聞き取りを行い、本人本位に生活が送れるように努めている。毎月モニタリングやアセスメントシートも共に活用、見直ししている。	日々の関わりの中から発せられた言葉や面会時の家族の言葉を申し送りノートに記録し、情報を共有し実践している。発言のない利用者には様子などから推し量って「思い」として記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時・面会時に本人、家族からこれまでの生活歴や環境、性格等情報を聞き取り、他部署と連携し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の関わりの中で個々の生活パターンや排泄面、食事面又は表情や言動、気付いた事などに留意し記録を行い、常に現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き取った上で定例の会議にて意見を出し合い、プランへ反映している。又毎月モニタリングにて確認、見直しを行っている。	家族の要望や職員の気づきなどを記録し、定例会議で話し合いを行いプランに反映させている。面会時に家族が確認をしている。面会の無い時や状態に変化が見られた時は電話で報告し話し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた事をケース記録や申し送りノートに記録、朝の申し送りにて各担当者がケアプランを確認し合い職員間で情報の共有の徹底している。個別記録を元にケアプランを見直し評価を実施している。		

事業者名：認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて通院や理容・美容等送迎の支援を行っている。又、必要に応じて訪問歯科の受け入れ等もやっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の警察、包括、自治会会長、老人会代表に参加してもらい、意見の交換をしている。地域の美容院の協力を得る事が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診については、院長往診となっているが状況に応じて定期的に家族の同行をお願いしている。	家族の要望で法人の病院がかかりつけ医になっており毎月院長往診がある。専門医の受診は家族対応だが受診時の情報提供票は院長が書いている。受診先からの情報は病院にファックスで送られ、事業所と情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化や入浴時、排泄の介助、更衣時の際全身状態を観察し気付いた点は速やかに看護師に報告し、早期発見に取り組み看護師の元で確実な投与、内服、日常の健康管理の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供し頻回に面会に行くようにしている。又、家族とも情報交換し速やかな退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や急変時の対応について意思確認し、十分な説明を行い、理解・納得をして頂いている。又、家族会や面会時・電話連絡などで適宜、状態報告を行い、随時意思を確認しながら取り組み、看取りの経験もあり体制は整っている。	看取りについて文書化されており入居時に説明している。法人が病院であり看取りを希望する家族も多い。急変時は院長の往診や、看護師の支援もある。職員も法人の勉強会などで学んでおり、対応方法を理解している。これまでに看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間、休日の緊急連絡、夜間帯の看護師への連絡は、マニュアルを作成し周知徹底を図っている。又、応急処置は法人の勉強会(実技)で確認し全ての職員が対応出来る様になっている。		

評価機関： 福祉サービス評価センターおおいた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と避難訓練を行っている。地域の小学校の運動場で消火器の使い方など定期的に訓練を行っている。又、推進会議にて自治会長を通して地域の方に災害時の協力呼びかけを行った。	夜間を想定した訓練や業者の協力で消火器を使用しての訓練を行っている。現在、地域との協力関係は得られていないが、自治会長の交代で話し合いを進めている。併設の施設の協力体制がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で常に意識確認し、不適切な言葉、対応はその都度職員間で注意し合っている。一人ひとりを大切に思い、尊重し、寄り添いながら必要な部分をさりげなく声かけし支援している。	言葉かけの際の声のトーンや語尾など日常的に気をつけている。不適切と思われた時はその場で注意している。言葉の不自由な人には時間をかけてゆっくり対応するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合った声かけを行い、思いや要望に添った対応し、また意思表示が困難な方には表情を読み取ったり応えやすい様に選択肢を作り、どんな些細なことでも本人が決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に配慮しながら本人の希望を尋ねたり、相談しながら本人のペースで過ごせる様な支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や施設の行事等で化粧やおしゃれをして参加出来る様な支援をしている。本人の要望に応じて地域の理容・美容院を利用し、男性の方は毎朝髭剃りの声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みの物をや食べたい物を聞き、おやつ等で提供している。又、職員と利用者と同じテーブルを囲みながらお茶を飲んだり、食事をしている。体調により個別で居室対応も行っている。	昼、夜は併設の老人保健施設の作った物を食べている。職員も弁当を一緒にテーブルで食べている。朝食は事業所で作っているが、利用者も米をといだり、野菜を切ったりしている。おやつは利用者の希望を聞き、手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事・水分摂取量は常時記録し、体重の増減がある方は栄養補助食品を提供、また嚥下困難な方にはお茶ゼリー等用意し状態に応じ個々にあった物を提供し工夫している。		

事業者名：認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じて口腔内の清潔に努めている。自分で出来る方には声かけ、見守りをしている。拒否のある方には無理強いしないで時間を掛けて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録しパターンを把握した上で尿意のない方にはトイレ誘導を行い、なるべくトイレにて排尿できる様に支援している。又、その方に合ったオムツを使用する事でオムツの軽減に努めている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を基本に支援している。立位が困難な利用者には職員が二人体制で対応している。オムツ使用の軽減につながる工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便チェックを行い、個々の排便の周期とコントロール方法を把握している。又、水分チェックの徹底、廊下歩行や体操等身体を動かす働きかけしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全員が週2回以上入浴出来る様にしているが入浴拒否がある時は無理強いをしないようにし、声かけ工夫し対応している。また、本人の希望に合わせて時間や予定日以外でも臨機応変に対応し支援している。	月曜日から土曜日の午後準備し、週2回入浴している。希望により3回の人もある。必ず浴槽内に浸かる事を基本にしている。重度の利用者は二人で対応している。拒否がある時は気の合う職員が介助したり日曜日にも行うなど工夫し、少なくとも週2回入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの浅い方に対しては日中の活動を促し生活リズムを整えている。又、必要に応じて本人の希望や表情から汲み取り、食後のベット臥床を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の保管や受診時の医師による指示を申し送りノートやケースに記録し、症状変化の確認に努め、変化があった場合は医師へ報告する体制を取り、確実な投薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味を把握しカラオケや絵手紙等へ参加出来る様に支援している。又、洗濯物干し・畳みや食器拭きなど出来る範囲で手伝って頂き、必ず職員が感謝の言葉を伝える様にしている。		

評価機関：福祉サービス評価センターおおいた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の状態や希望時には随時ドライブ等に出掛けている。又、家族との連携、協力を得て冠婚葬祭等への参加も実現し、外部受診のため外出することもある。	地元の店に買い物に出かけたり、近くの公園へ散歩したり、神社に賽銭を持ってお参りに出かけている。家族の協力で孫の結婚式や仏事など冠婚葬祭への出席や、盆、正月の外泊もしている。希望によりドライブに出かけたり、コスモスやチューリップ、桜など季節の花見など手作り弁当持参で外出支援を積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かっており、外出時や散髪し本人に確認し職員を介して支払っている。又、金銭出納帳を毎月家族に確認し、サインを頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直筆で家族へ年賀状を送ったり、支援が必要な方に関しては手を添え支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		共用のトイレは車椅子での利用ができ、浴室も利用者の身体状況を配慮した工夫がされている。共用空間から中庭が見渡せ、彼岸花や吾亦紅など季節の花々や樹木が植えられ季節感を感じる事が出来る。テラスではお茶を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気の良い日はテラスにて数人でお茶を飲み外気浴を楽しんでいる。又、利用者が畳みの上で横になり過ごすこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具・テレビ等を持ち込み居心地良く過ごせるような工夫をしている。	自力でトイレを使用する利用者には移動し易いようにベッドの位置や角度を工夫している。居室内のトイレにはカバーを掛け、使用中は札を下げるなどプライバシーに配慮をしている。家族写真や洋服、本、新聞などでその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に合わせベットからトイレの動線を安全に使用でき、自立した生活が送れるように配慮している。又、床頭台も自由に整理出来る様に設置している。		